

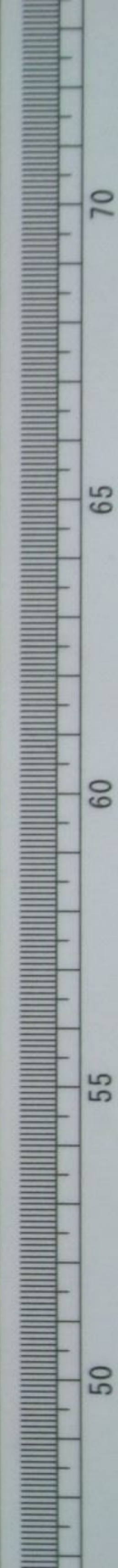
金銀圖錄

尚古品

伍

~~P  
269  
5~~

逍遙文庫  
文庫 6  
2167  
5





金銀圖錄卷之五

尚吉品

近藤守重輯

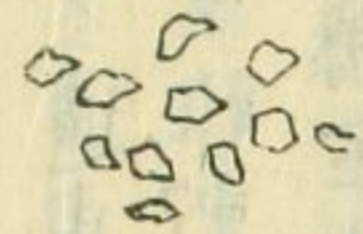
愚按天武白鳳三年三月對馬銀ノ貢ス聖武天平二十  
 一年二月陸奥國黄金ヲ貢ス是金銀ノ始トリ然レ氏  
 是ヨリ五十一年前文武三年ニ對馬島ノチ金鑛ヲ  
 治ムト見ヘ大宝元年三月陸奥ニ命ノ治シムト見ヘ同  
 月對馬島金ヲ貢ス元ヲ大室ト建ト載タレハ金ヲ治ス  
 ルモ舊キナリ此ヨリ後ツ子ニ煉金砂金並ヘ稱ス既ニ  
 治ト云ヒ練ト云トキハ其常形ナキナリ得ス古キ物語ニ金  
 ノ形ヲ云シナリ又筋金竿金板金竹流ナト云傳ヘタル皆古金  
 ノ形ヲ云シナリ鎌倉以上ハ其形得テ詳ニスヘカラス今  
 耳目ノ聞見スル所ヲ左ニ列ス凡七十二品

金丸



重サ三匁三分相傳フ昔  
時沙金ノ散失シヤスキヲ  
以テ吹テ顆塊トナスモノナ  
リト疑クハ即チ碁石金ナラ  
ニカ又按ニ和漢三才圖會ニ  
飯一名餅金俗云金丸也用  
沙金安於鹽上積炭燒之  
則金沙徐集為玉而生文  
埋コレ所謂金ノマルカセナ  
ルモノ歟  
再按ニ金山ニテ吹目ト云モノ則是ナリ今藥  
金ニ砂金ト呼モノモ又是ヲ用ニナリ

砂金



金銀畜品ニ載ス云圖ノ如ク薄シテ  
茄子ノ實ノ如シ上品ノ金ナリ袋ニ入テ用ニ  
愚按ニ是唐土ニ所謂麩麥金ナラン  
加賀ノ一富商露金ヲ藏ス盒ニ盛ル試ニ  
搦シテ紙上ニ散スレハ燦爛妍麗粒々  
光アリ今加人ヲシテ畜ヲ作シメ此ニ載ス

古(黄金若干兩ト云モノハ砂金ナリ砂金ニ二品アリ  
 水沙中ニ自然ト生スルモノ有リ礦石ヲ碎テ粉砂ト  
 ナレ水ニ淘リテ成モノアリ共ニ山出シノ生金ニシテ  
 治練ヲ歴カレモノナリ 今依渡ニテ西三河ト云也砂金山アリ砂山  
 ノ中ヨリ自然ノ金砂出ツル也砂山工溝ヲ  
 掘リテ水ヲ流シ子コト云布ヲ底ニ敷ク砂金ハ子コト云也又相川ノ濱ニ寄ル砂  
 金ハ金山ノ碎屑ヲ海ヨリ打揚ルナリ濱川流シト云方ニテ金ヲ採ルナリ是ハ自然  
 ノ砂金ニ非ス天工開物ニ山石中ニ所出ト云砂中ニ  
 所出ノ二品アリ物理小識ニ成子變金生沙中云云 其砂ヲ目方ヲ掛ケ包ニ  
 分ケテ通用セシ事也愚南部ノ沙金ト蝦夷ハボロノ  
 砂金ヲ收貯ス共ニ水沙中ヨリ出ルモノ也唐山ニシテ  
 麩金糠金ト云 圖書集成金銀部ニ相海金石志ヲ引テ云生金出西南  
 州岫生山谷田野砂土中不由礦出也自然融結成顆大  
 者麥粒小者如麩片使可銀作服用既鍊則是熟金云云天工開物ニ水金多出  
 南金沙江云云于江以水中淘沃取金云云空貨辨疑ニ麩子金粹屑如麩片似

金乃麩金之屑如沙細者又天工開物ニ  
 麩麥金麩沙金糠金アリ 冶金ハ大宝元年ニ始リ陸奥  
 ノ貢金ハ天平二十一年ヲ始トス天平勝宝二年駿河  
 練金沙金ヲ獻ス延喜式交易雜物ニ下野陸奥ニ砂  
 金練金アリ鎌倉ノ時沙金ノ賜ト陸奥ノ貢金ト東  
 鑑ニ書ヲ絶ス小右記長元二年九月前陸奥孝義  
 志砂金十兩金粒太大不似例金云云孝義我云此砂  
 金異例金不可被充用雜事云云トアレハ其時砂金  
 ニ大小ノ品類アリ也 義經記ニ見エシ金商人  
 土古次トハ今云兩替師ナリ多門院日記畧文祿年  
 間ノ記ニモ金高トモ兩替ノ衆トモ書タリ

砂金ハ紙ニ裏ミ袋ニ入テ用フ引出物礼物布施物  
ニハ沙金ヲ銀ノ壺ニ納レ青朽葉ノ清紗ニ裏ミ  
松ノ枝ニ付レコト扶桑畧記ニ見エ銀ヲ以テ作ル  
蔣苜ニ納テ白綾ヲ以テ地盤ヲ飾リ又銀ノ打  
敷折敷ニ置キ又銀ノ檜扇ニ置又銀ノ扇ニ置事  
東鑑ニ見エ薄様ニ裏ミレコト管見記ニ見エ銀器  
ニ入同臺銀ト永享行幸記ニ見エ銀盆ニ居ル下  
親長記ニ見エ銀折敷ニ居ル一鹿苑院殿并普廣  
院殿御元服記相國寺塔供養記ニ見エ宣上日宮ニ  
入宮ノ蓋ニ入ル、事康富記ニ見エタリ奥州後三年

合戰繪詞ニ武衡金多ク取イテ、季方ニトラスト  
云処ニ折ニ甲立ヲ付ケタル内ニ沙金ヲ盛リシ  
圖ニエタリ進退記ニ沙金ハ織物ノ袋ニ入テ唐ノ  
盆硯ノ蓋ナトニスヘテ人ニ遣ス也袋ノ口ハ請取  
人ノ方ニ向テ出ヘト云天正十六年四月聚樂  
行幸ノ時獻品ニ黄金五百兩砂金袋ニ入テト天正  
記ニ見エタルハ堂鑑ニハ五十兩多門院日記  
畧本附記ニ百兩ニ作ル砂金ナルヤ練金十  
ルヤ今知ヘカラス近世用ル砂金裏ト云モノハ小判  
金十兩ヲ木形ノ香合ノ如キモノ、中コ入テ其上  
ヲ色ミノ紙ニテ包ムナリ其圖左ニ出ス又今俗

間ニ茶巾餅ト云アリ砂金餅ノ誤ナリ今川大双紙  
ニシヤキント云カンハコカ子ヲクム様ナリ橋ノ如シ是  
ハ包メヲクイキツテクフヘキナリト見ユ竹流ト同シク  
古雅ノ菓子ナリ

砂金一裏ノ目方何ホトナルヤ錢何貫ニ當ルヤト思ヒ  
シニ京都將軍家ノ時ノ諸書ヲ参考シテ初テ其  
説ヲ得タリ砂金一裏八十兩ナリ十兩ハ代二千足  
ニシテ錢二十貫ニ當ルナリ康富記ニ文安六年四月  
宣下ノ時祿物砂金二十兩ニ裏納宣旨管被下之  
云云祿物砂金十兩一裏納管蓋被下之コレ一裏ハ

十兩ナリ親長記ニ文明五年十二月御元服ノ時各給  
祿砂金十兩但代二千匹被出之云云コレ十兩三千  
足ニ當ルナリ小槻記一名長文明七年四月宣下  
ノ時内記恩祿沙金一裏代二千足云云副使千  
匹被下云云文明九年正月叙品宣旨  
下ノ時祿物ヲ夕同レ裏之コレマタ一裏ハ二千足  
ニシテ親長記ノ十兩二千足ト云ト合セ考ヘテ弥  
其證ヲ得タリ近世用ヒラル、砂金裏十兩一  
裏ナルモコノ遺制ナルヘキナリ是等ニ據レハ  
當時砂金一兩錢二貫文ニ當ルナリ其一兩ト云  
モノ又二法アリ古ヘ令式ニ見エシ大小ノ一兩ハ唐

ノ制ニ効テ十匁一兩今ニ三兩ヲ大兩一兩トス銀銅穀ニハ大兩ヲ用  
フト見ユ黄金ヲ兩ヲ以テ云事推古紀ニ見ユ白  
銀ヲ兩ヲ以テ云ユト  
持統紀ニ見ユタリ則チ十開元錢十文ノ重サナリヨリテ  
鎌倉以來モ一兩八十匁タルヘシト思ヒシニ又五匁  
一兩アルナリ今モ俗間ニテ古金八五匁ヲ一兩ト  
ナスナリ銀一兩ヲ四匁三分トスルコト何レノ時  
ヨリ起リシヤイマタ考ヘス律尺考驗ニ凡漢錢四銖五  
銖ノ重サ并ニ漢志ニ所謂  
黃ハ方寸ニシテ重サ一斤ノモリニテ考ヘ見ルニ大均古ノ一兩ハ唐  
秤ノ四錢半ニ當ルト見ユ一兩ノ説區ニナレトコレ又一説ナリ又  
今通用金小判一兩ヲ五十目ト定メラレハ慶長十四年ノ令ニ見  
ユ是ハ一匁兩ノ重サニ拘ルコトアラヌ通雅ニ後世分兩漸改錠有  
大小相治遂以一兩為一金矣  
トミエタルハ相似タルコトナリ大内家法ヲ按ニ義興ノ家法  
ナリ時ニ防州  
山ノ文明十六年五月ノ下知狀ニ金銀兩目御

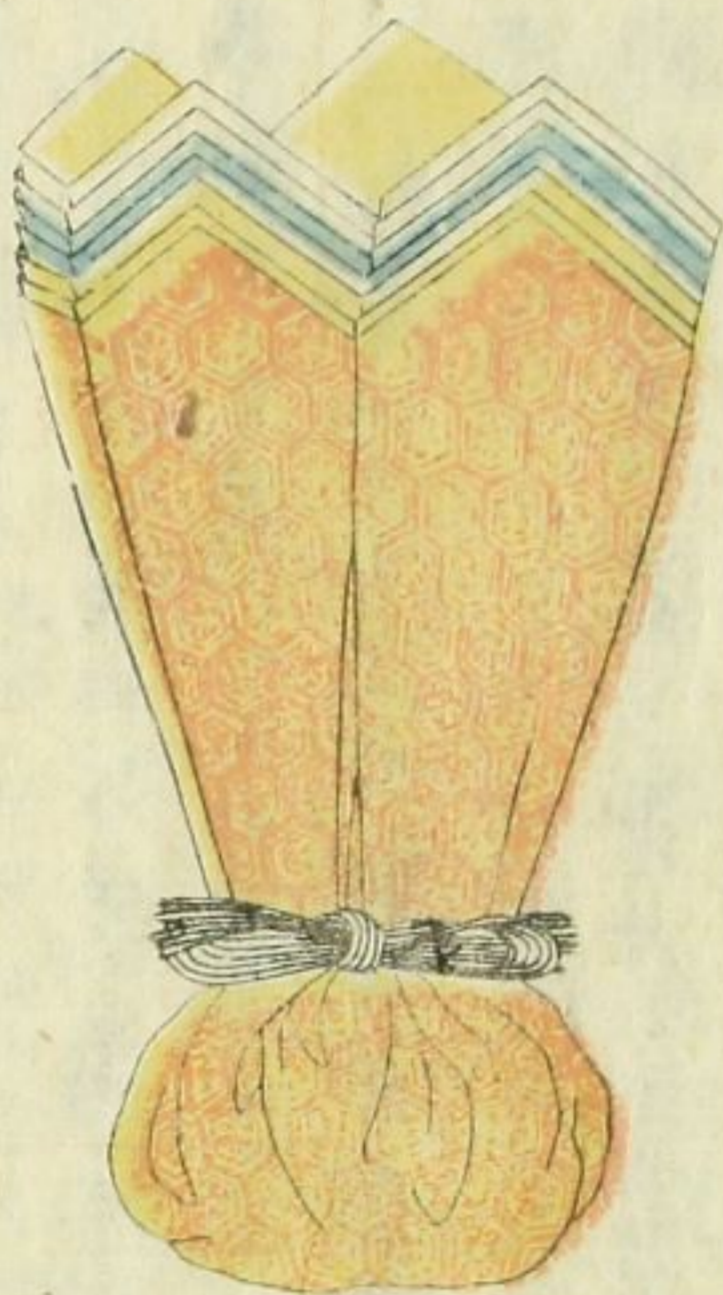
定法ノ事コカ子シロカ子兩目ノ事ハ京都ノ  
大漆トシテ何レモ一兩四匁半錢ニテ二兩九文  
目タル處コカ子ヲハ一兩五匁ニウリカウ事  
ソノイハレナレ云々代ハタカクモヤスクモ其身  
其身ノハカライタルヘシ愚按ニ代ハ錢ノコトナリ是  
金銀ハ定法アリ錢ハ時相違也兩  
目ノ事ハ京都ノ法ヲマモルヘシト見エタリ然  
レハ金一兩ヲ五匁トスルモ文明ノ頃ヨリ已ニ  
然ルナリ既ニ砂金十匁一兩ナルトキハ重サ壹  
匁ニ代錢二十文ナリ五匁一兩ナルトキハ重サ  
一匁ニ代錢十文ナリ今ノ制ヲ以テ考レハ金

甚賤ク錢甚貴ニ似タリ尚正用品天云大判ノ  
 條ニ載スル天正間ノ金相場ト俛セ考ヘシ今  
 松前ノ俗往時ノ遺法ナリトテ砂金一兩ヲ  
 丁錢四貫三百二十文ニ當テ砂金一匁ヲ丁錢  
 六百文定價トス又甲州ニテ今金一兩ヲ四拾  
 八匁ト定ム是モ砂金ノ遺制ナリト云然ルヤ  
 否ヲ辨セス甲州ノ砂金ハ今巨摩郡保村ヨリ出ル則雨  
 知ノ金山ト隣リ駿州梅地金山ノ後ニテナリ  
 砂金若干兩ヲ賜ト云コト國史ニ比ト見エモト  
 ヨリ賞賜ニ充テナリ東鑑ニ正治元年賜砂  
 金廿兩以下祿ト出タレハ此頃砂金若干ト云フ

以テ賜賚ノ準トナセシナリ又沙金ヲ通用セ  
 シコトハ三代實錄元慶三年十月ノ条ニ庫物之  
 代砂金六百三十三兩云云每唐人來募貨物直  
 借用庫物交関畢後以砂金給官云云其砂金  
 一兩充綿十六屯トアレハ專ラ砂金通用アリシ  
 事知ヘシ寛仁元年盜人前ノ攝政家ノ倉町  
 ニ入テ砂金千三百餘兩ヲ盜取ヨシハ日本紀畧  
 見エタリ  
 愚砂金考一篇ヲ著ケントス事長ケレハ此ニ贅  
 述セス



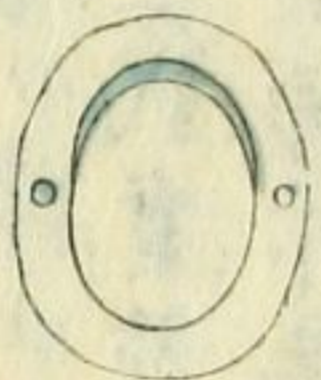
近世砂金裏



表金箔



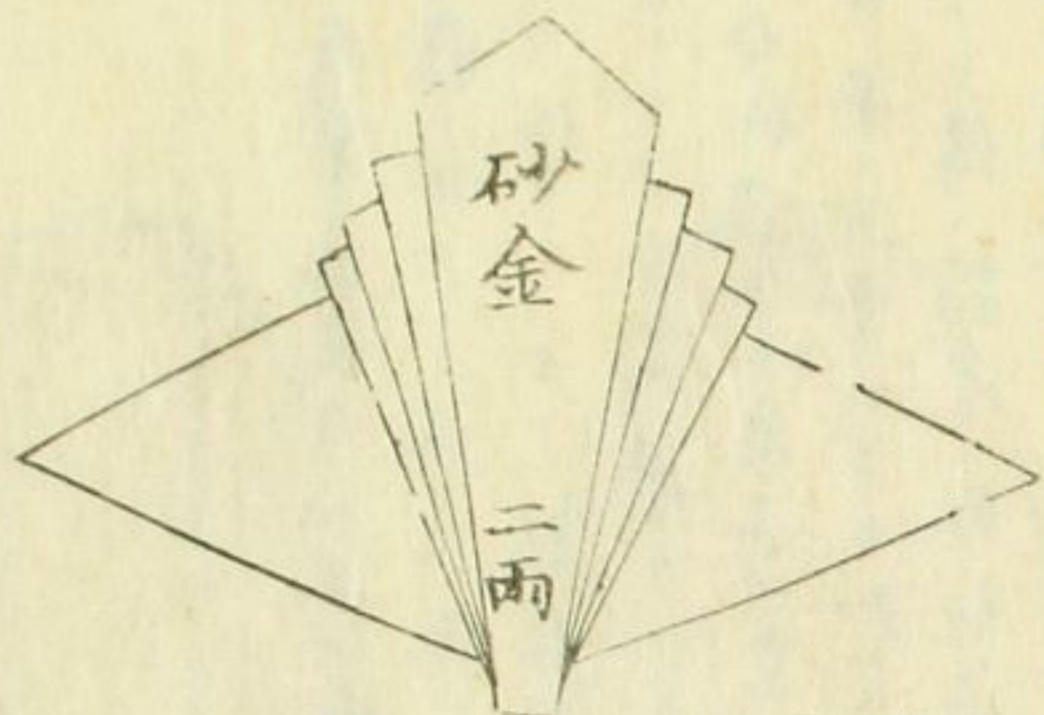
裏銀箔



外亀甲形金紙一枚  
裏無地金紙一枚  
中黄青赤紙各一枚  
紅白水引ニテ結之  
解先ヨリ底マテ長サ  
七寸七分許

木ヲ圖ノ如ク丸ク  
平メニ造リ中ヲ利  
リニツ合釘ニテ動カ  
サレヤウニス

同仙臺家砂金裏



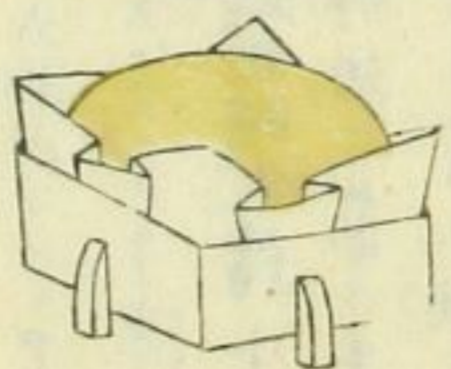
奉書紙二枚重子  
解先ヨリ底マテ九寸五分  
兩翼一尺二寸五分

後三年合戦繪砂金畚



背 側 面

白紙ニテ包ミ  
紙摺ニテ結フ



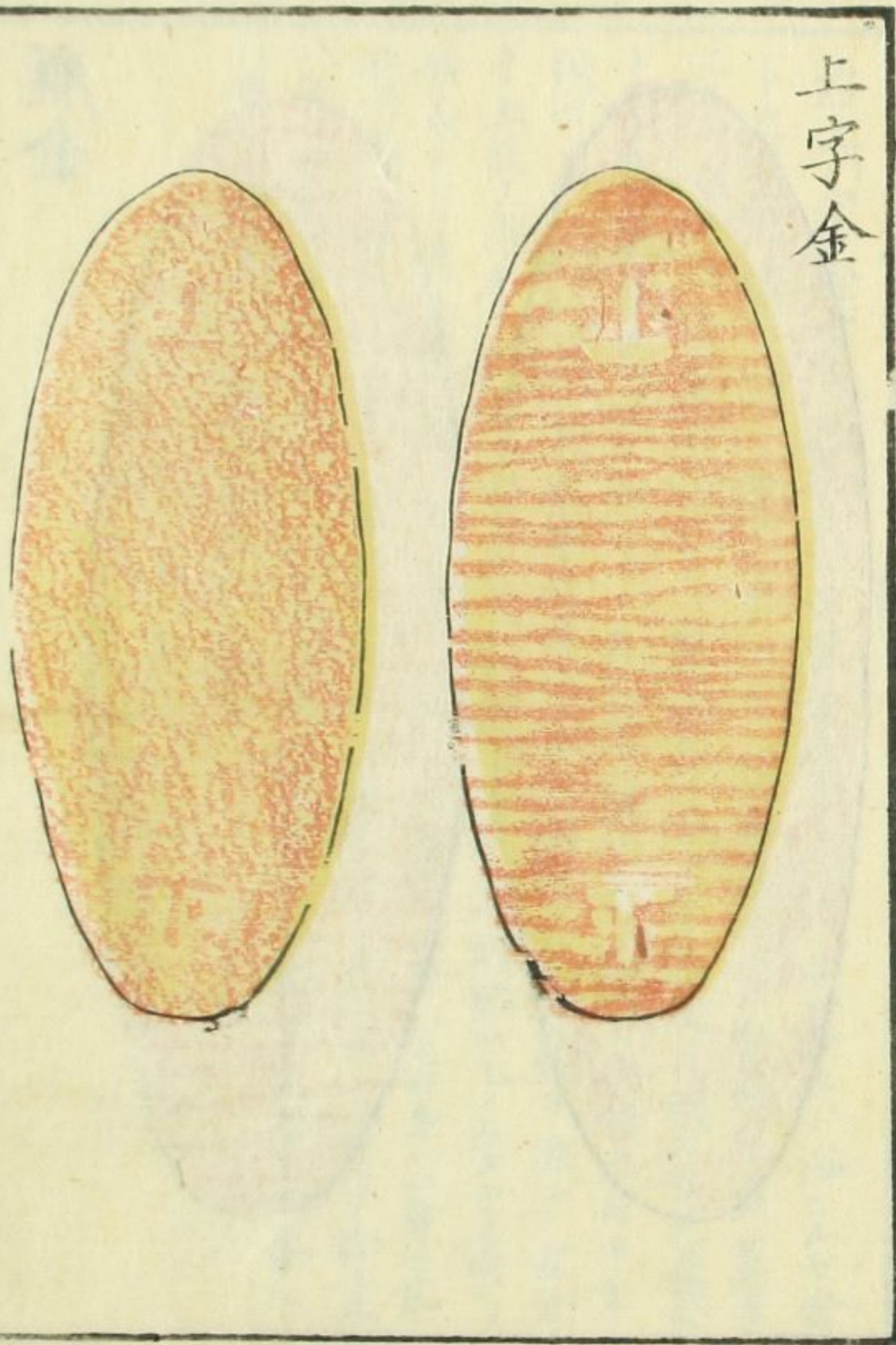
竹流金



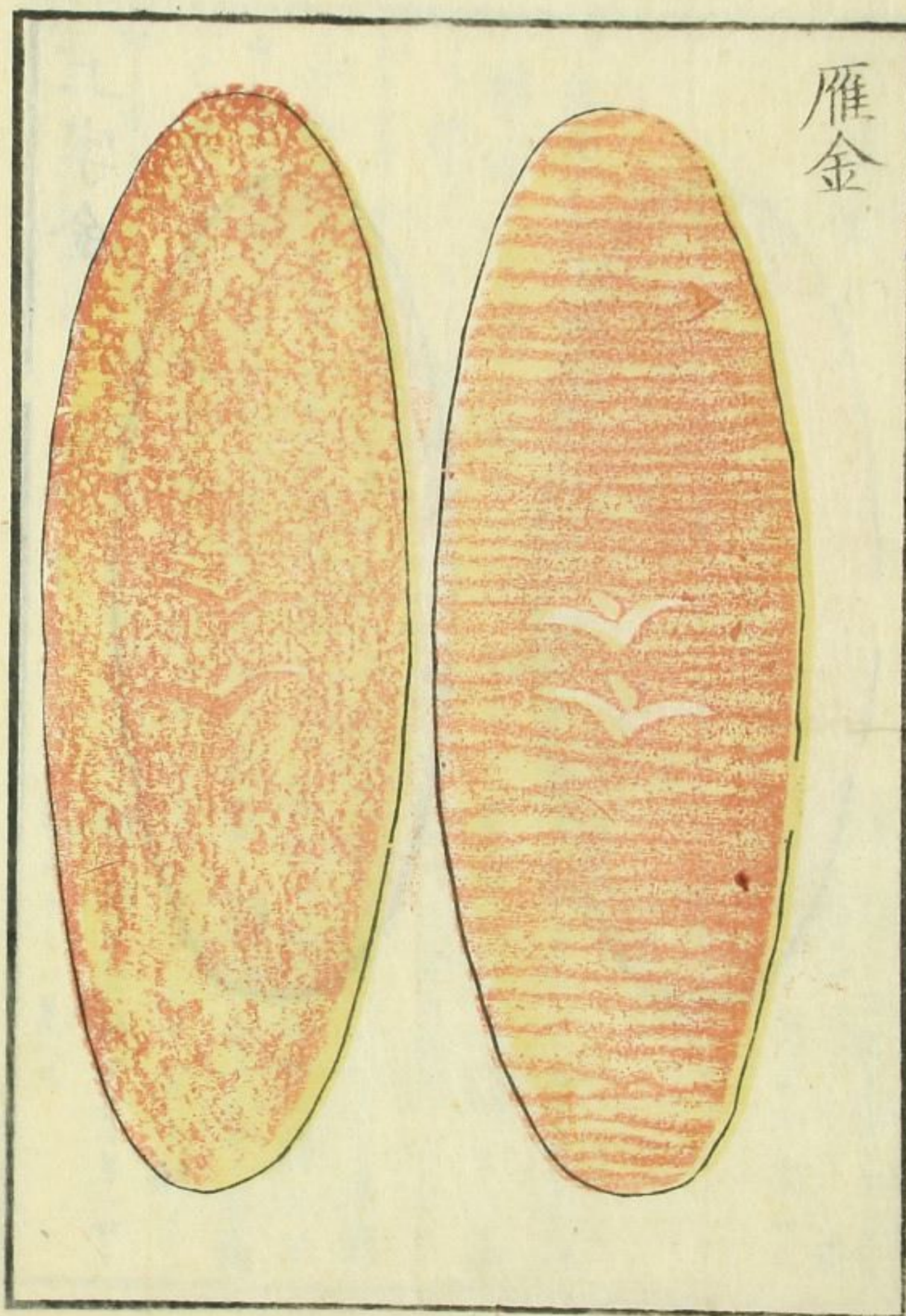
青木氏嘗て載後高田ニテ金賣  
吉次ノ金ト云フヲ見シトテ圖  
示ス左ノ如シ是亦竹流ナル

一友嘗て竹流金ヲ新片ヲ藏ス竹ヲ剖テ金ヲ鎔シ流シタルナリ使用ノ時ハ秤  
ニ懸テ切レナリ或ハ云織田氏ノ時ノ物ナリト豊臣氏ノ時ノ記録ニモ竹流  
ノヲ徃々ニヘタリ静庵隨筆ニ大坂ノ竹流ハ大方金五兩ホトワアリ  
レトナリ今モ佐渡ニテ小判ヲ制スルニ竹筋金ヲ竹流ト云ニアルナリ津輕  
ニ今竹流ト云菓子アルモ此遺制ナルニテ愚按ニ續近世崎人傳小万  
女ノ条ニ思考云予カ知レル老妾北ノ方ノ番袋ト銀ノ竹流ニ筋ト手箱  
一ツヲ傳ヘ持タリ銀ノ竹流ハ細キ針カ子ノサマニテハ寸ハカリ有リ鉄ニテ  
切テ用ユルモノナリ蒿蹠云ヲノカ類族ノ家ニ傳ヘ持タルハ針カ子ヨリハヤ  
平ノミレテ長モ定ラス通稱ハ竹筋金ト云ヨレ刻印ナトハ見ヘス

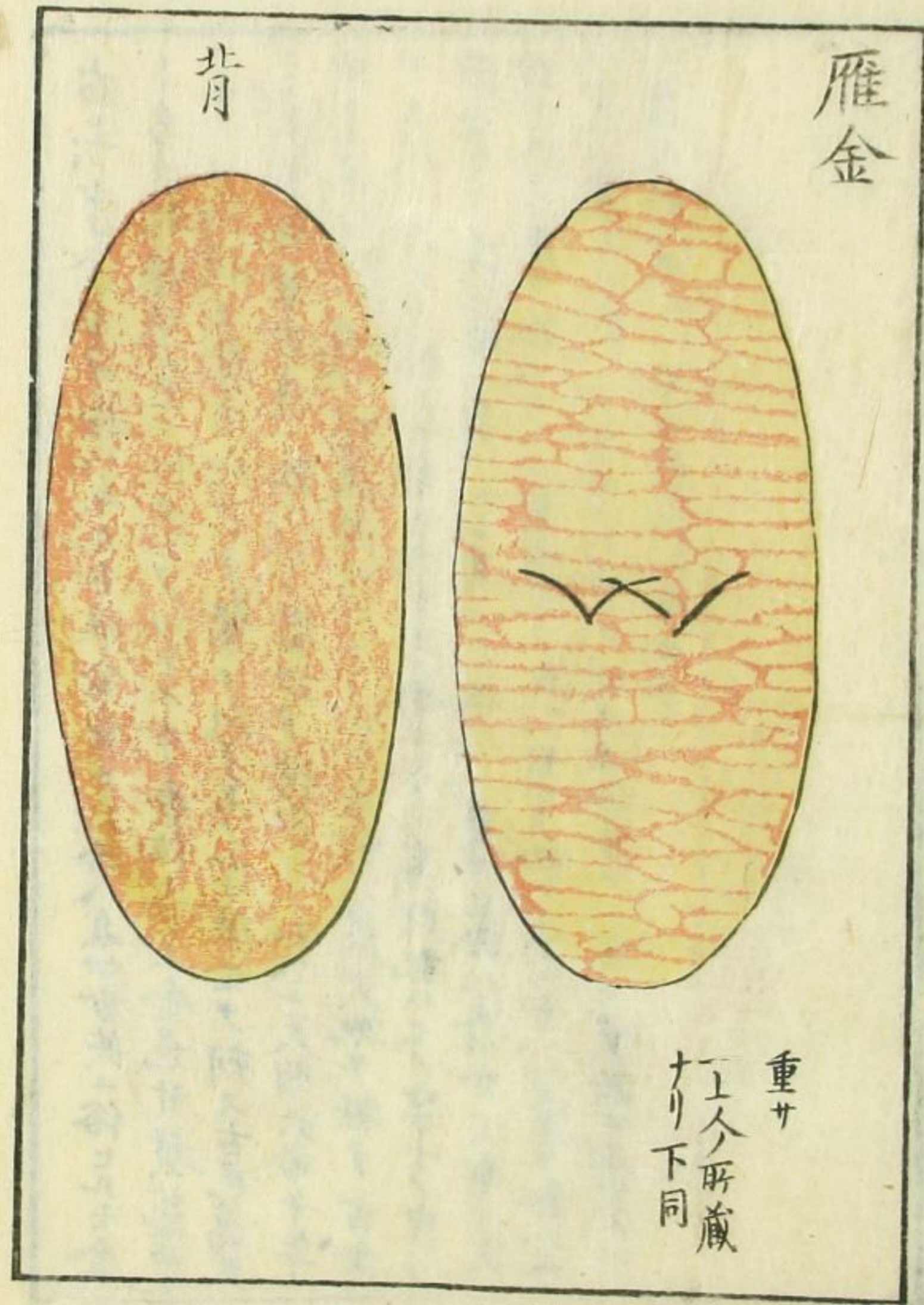
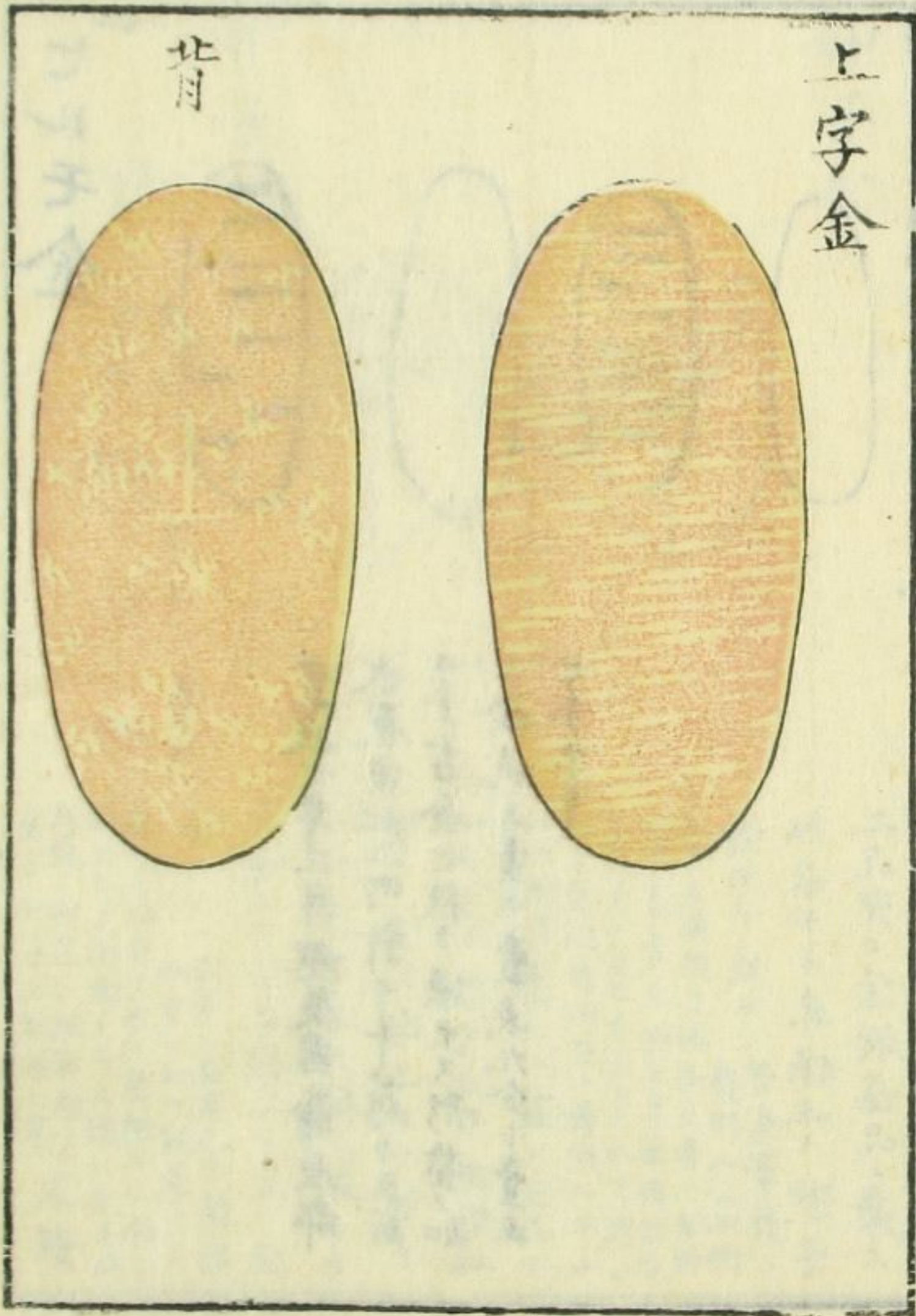
上字金



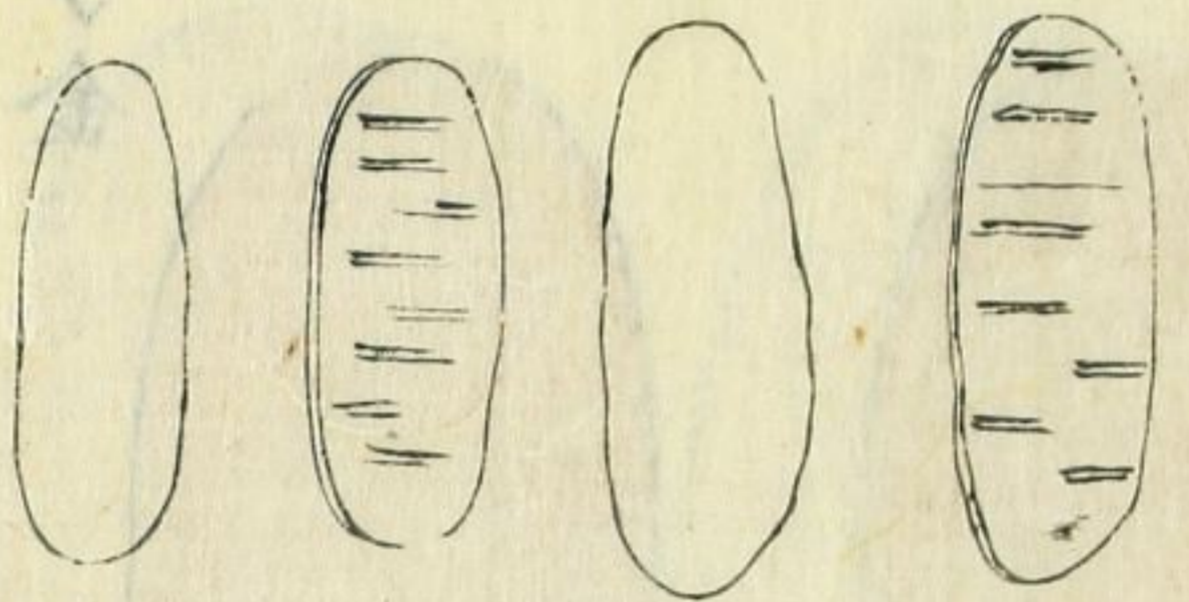
雁金



右上下字金重サ拾八匁九分雁金重サ三拾八匁四分共ニ俗ヒルモ金  
 ト名ク形眼兎菜ニ似タルヲ以テナリ金位上ノ上金色甘黄蒸粟  
 ノユトシ面槌目背石打ニシテ鑿ヲ以テ上ノ字雁金ヲ刺ス古色藹然  
 トシテ其鑄倉前後ノ物ナルヲ鑒定ヲ待ズシテ知ヘシ天明六丙午年  
 閏十月一説ニ寛政  
元酉年四月越後國刈羽郡五日市村ノ農夫地ヲ掘テ古金  
 十五枚ヲ得タリ形ニナ同シ大小半楯アルニ其刻記ハヒノ字十ノ字ト  
 雁金ナリ其二枚ハ番ノ如シ其三枚ハ一八重サ三拾八匁四分一八重サ貳  
 拾六匁一八重サ拾八匁二八重サ拾九匁一八重サ拾三匁七分一八重サ拾八匁  
 八分一八重サ三拾一匁六分一八重サ拾五匁五分一八重サ貳拾四匁四分二  
 八重サ拾三匁一八重サ貳拾九匁五分

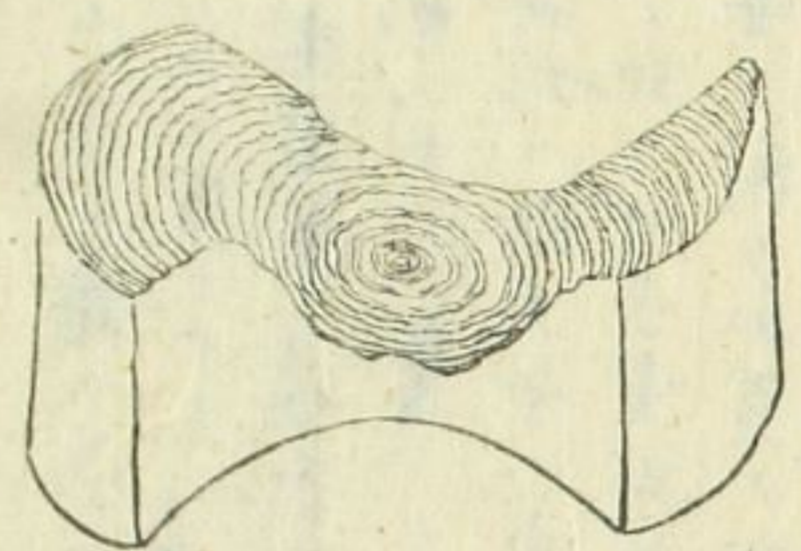


ヒルモ金



寛政七年三月越後國蒲原郡  
水原市北二町計り千枚ト云所  
ニテ古金七枚ヲ堀出ス形箭ノ如  
シ金色上重キ壹枚九分ト壹枚  
七分アリ

印子金



印子銀



重三又八  
分九厘



重一又



重五分

二品共ニ金銀面品ニ載ス  
此名ヲト淮南王ノ印子  
金ヨリ出テ 夢溪筆談ニ  
土中及溪澗之間往々得小金餅  
上有篆書文刺主字世傳淮南  
王藥金也得之者至多天下謂之  
印子金統博物志ニ壽州八公山  
土中耕者 後ニハ金ノ上品ト  
ルモノヲ指テ云フ金銀私  
考ニ金位極上々ヲ印子  
ト云是ハ度々煖ヒ抜キタ  
ル金ニテ廿五位ヨリ上ノ金  
子ナリ 抄考ニ天竺ニテ閩浮  
金ニテ位惡シ故ニ金銅ト云銀ノ  
極上々ヲ南蠻ト云又按ニ定西法  
師傳ニ印子ノ風呂金ノ又按  
重子印子ノ家具ト見ユ

二爾雅ノ註ニ所謂ル鏐即紫磨金林邑記ノ揚邁金本草ノ黃  
 牙ト云モノ皆是ナリ然ルニ慶長前後花印子舟印子等ノ目  
 アリテ賞賜ノ用ニ充シテ有リ元和七年ノ文書ニ褒美トシテ  
 印子拾渡スヘシトモミタリ愚按ニ印子拾ハ印子  
銀拾ノ一ナルハシ大閤記ニ慶長  
 元年土佐カツラキ濱へ着岸セシ南蠻船ノ荷物ノ内ニ一  
 千五百内ヒカ三百トアリ土佐單記ニ一砂金入タル箱五ツ一ツヲ八人シテ持ト  
アリ元親記ニハインスヒロウト、アリ愚本ニ  
他日校訂静庵隨筆ニ印子ト云モノハ舟形ノ物ナリ是ハ南蠻  
 物ナリト見ヘタレハ意ノニ南蠻人上金ヲ持渡リテ其頃印子  
 ト呼レシ其形ニ効テ今ノ唐金銀ノ制ノ如ク作りタルモノカ  
 明曆三年ノ記ニ印子重百目トアレハ自ラ一種ノ形ヲ為テ用ヒ  
 シナリ又嘗テ聞ク加賀ノ一富商印子ヲ蔵ス方三尺二寸許リ  
 薄キ一紙ノ如シニ折テ九ニ置三盒中ニ蔵ム之ヲ放テハ自ラ  
 展開テ更ニ摺痕ヲ見スト是亦一種ナリ

三子小判金

裏



側面

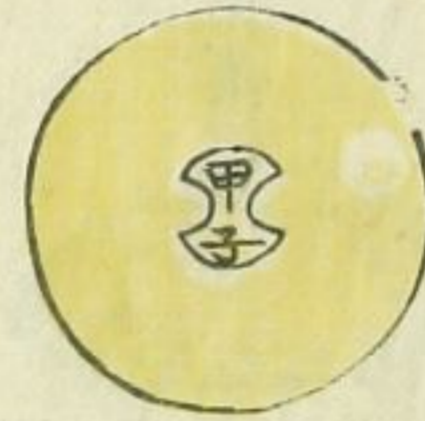


重廿四匁九方ヲ重  
 鶏卵ヲ割テ伏カ知  
 裏面ノ平ナル底ノ字

甲子小判金



背



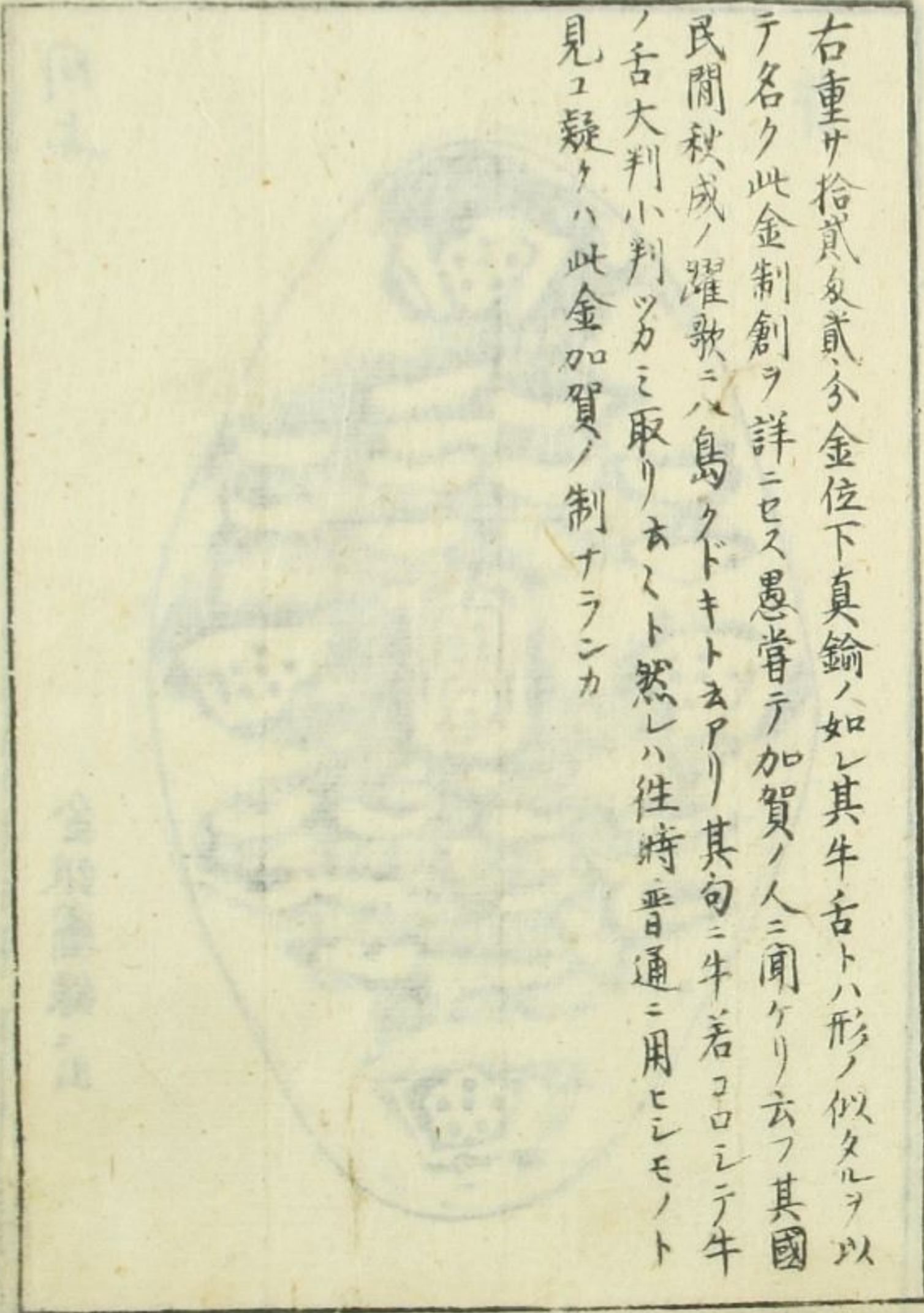
重正三及五方五厘相傳  
文祿元年造ルト何  
據ヲ知ラス

甲子小判金

牛舌大判金



右重サ拾貳匁分金位下真鍮ノ如レ其牛舌トハ形ノ似タルヲ以テ名ク此金制創ラ詳ニヒス愚嘗テ加賀ノ人ニ聞ケリ云フ其國民間秋成ノ躍歌ニハ島クドキト云アリ其句ニ牛若コロシテ牛ノ舌大判小判ツカニ取り去ルト然レハ往時普通ニ用ヒシモノト見ユ疑々ハ此金加賀ノ制ナラニカ

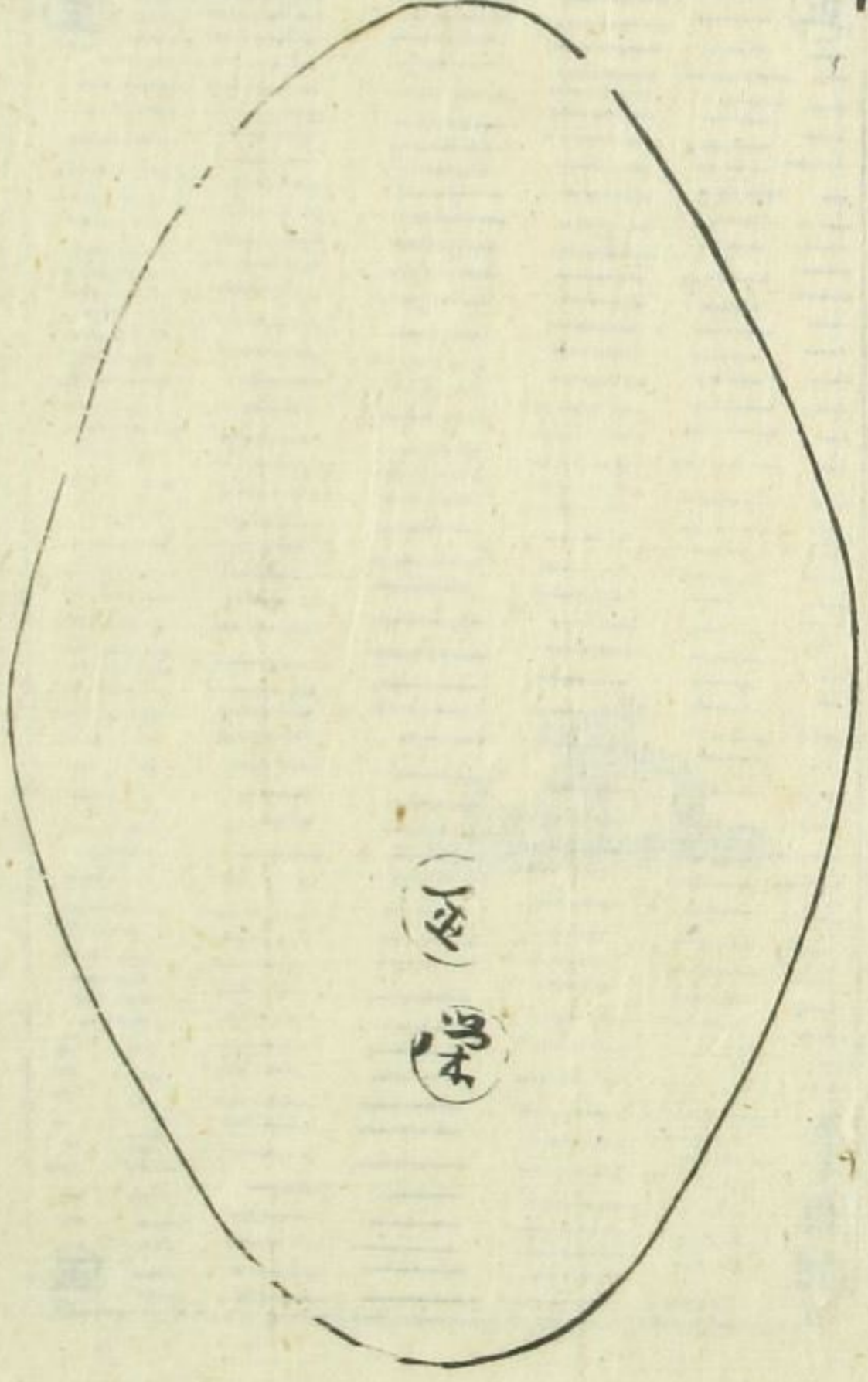


北背

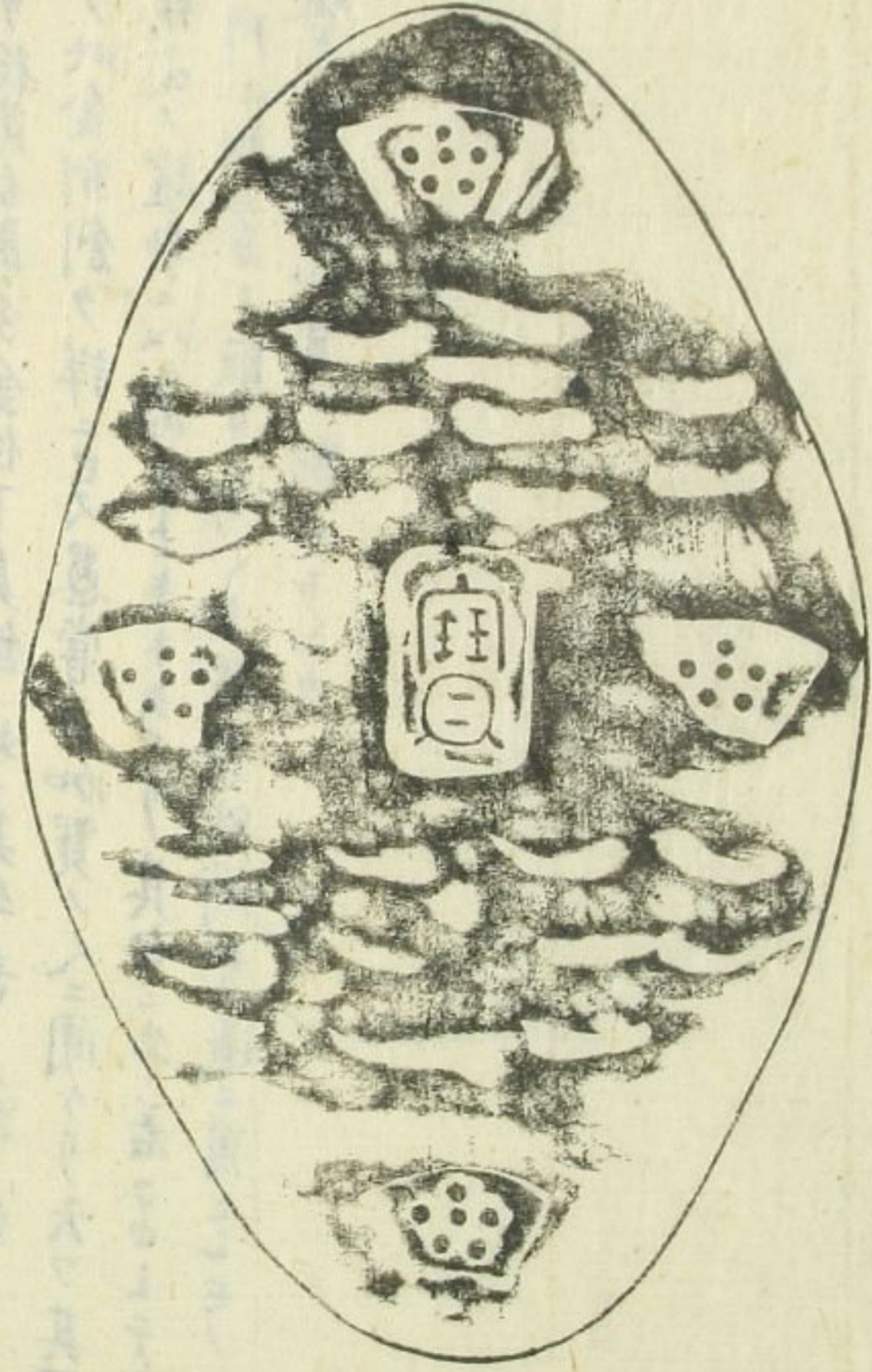




背



同上



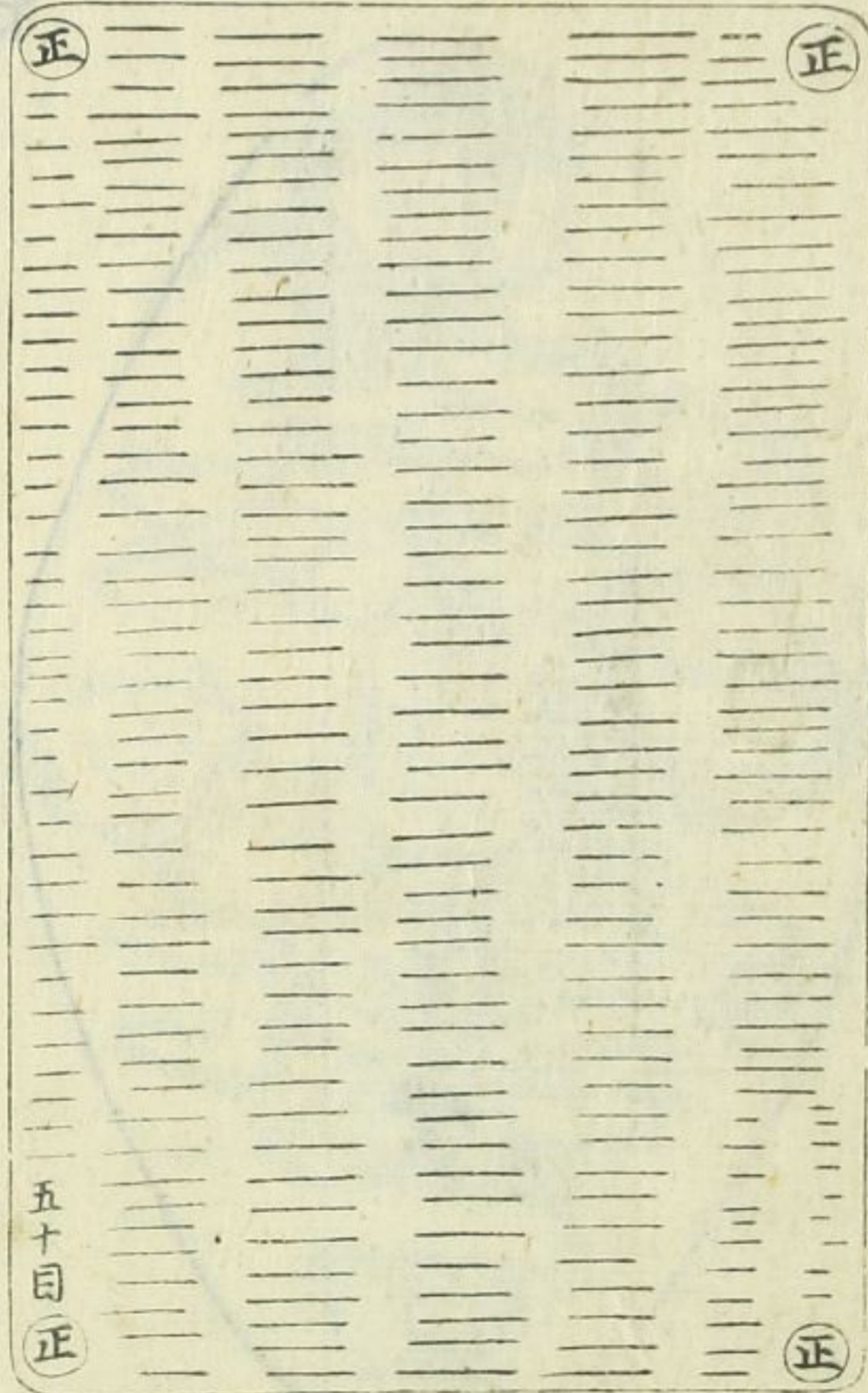
金銀圖錄三出

背



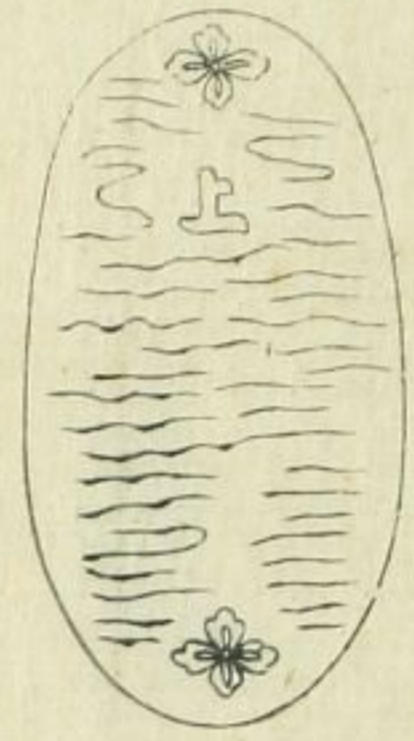
右昆陽漫録ニ載ス云正ノ字ハ刻印五十目ノ字ハ彫テアリ  
花押ハ持主ノ判ナルベシ

角判金

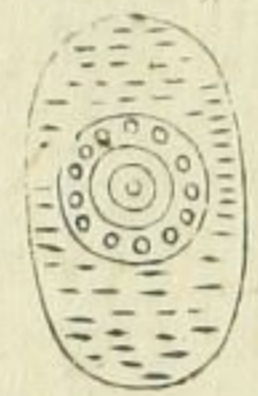


五十目正

日良判金



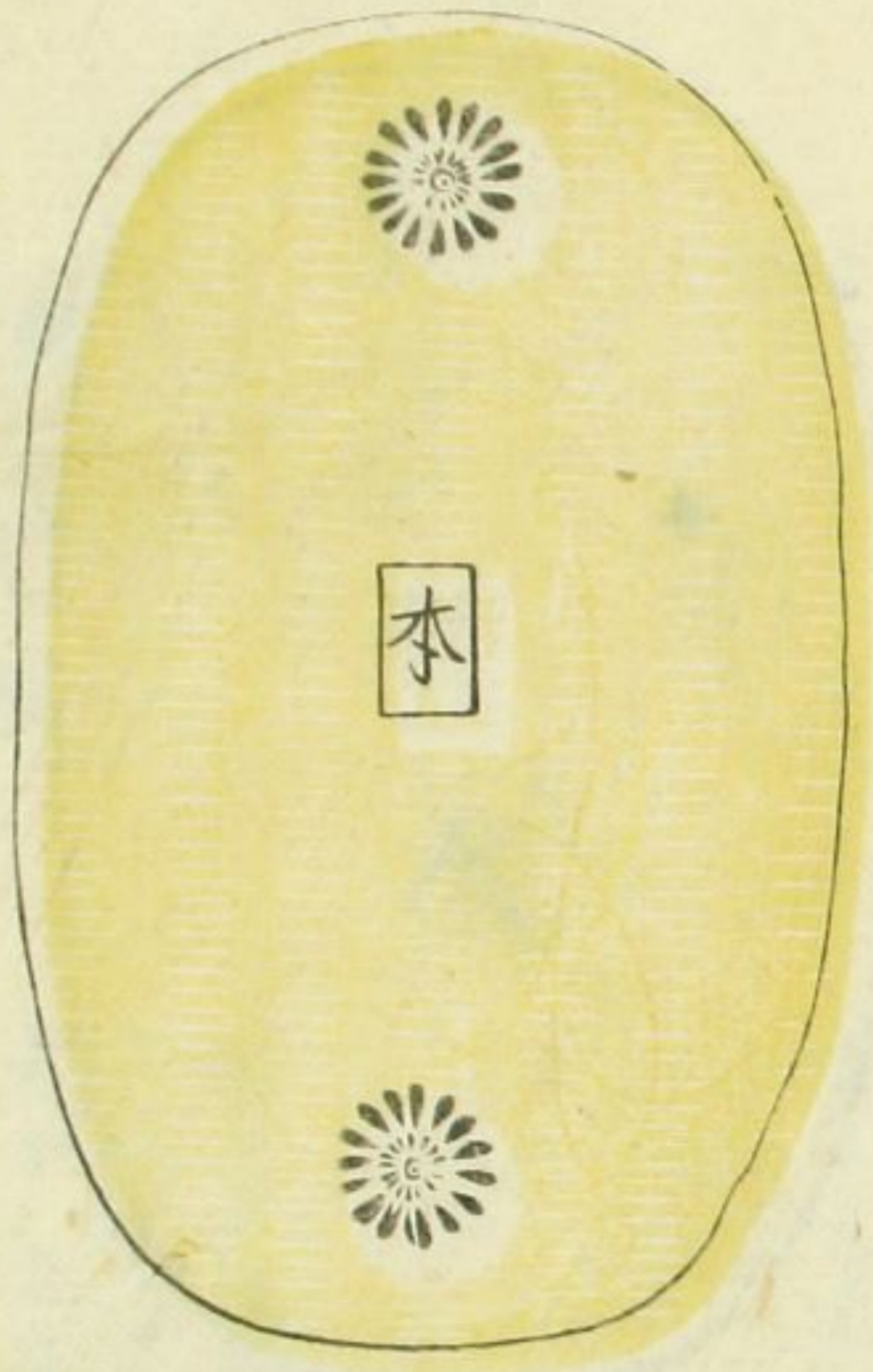
太鼓小判金



重四分

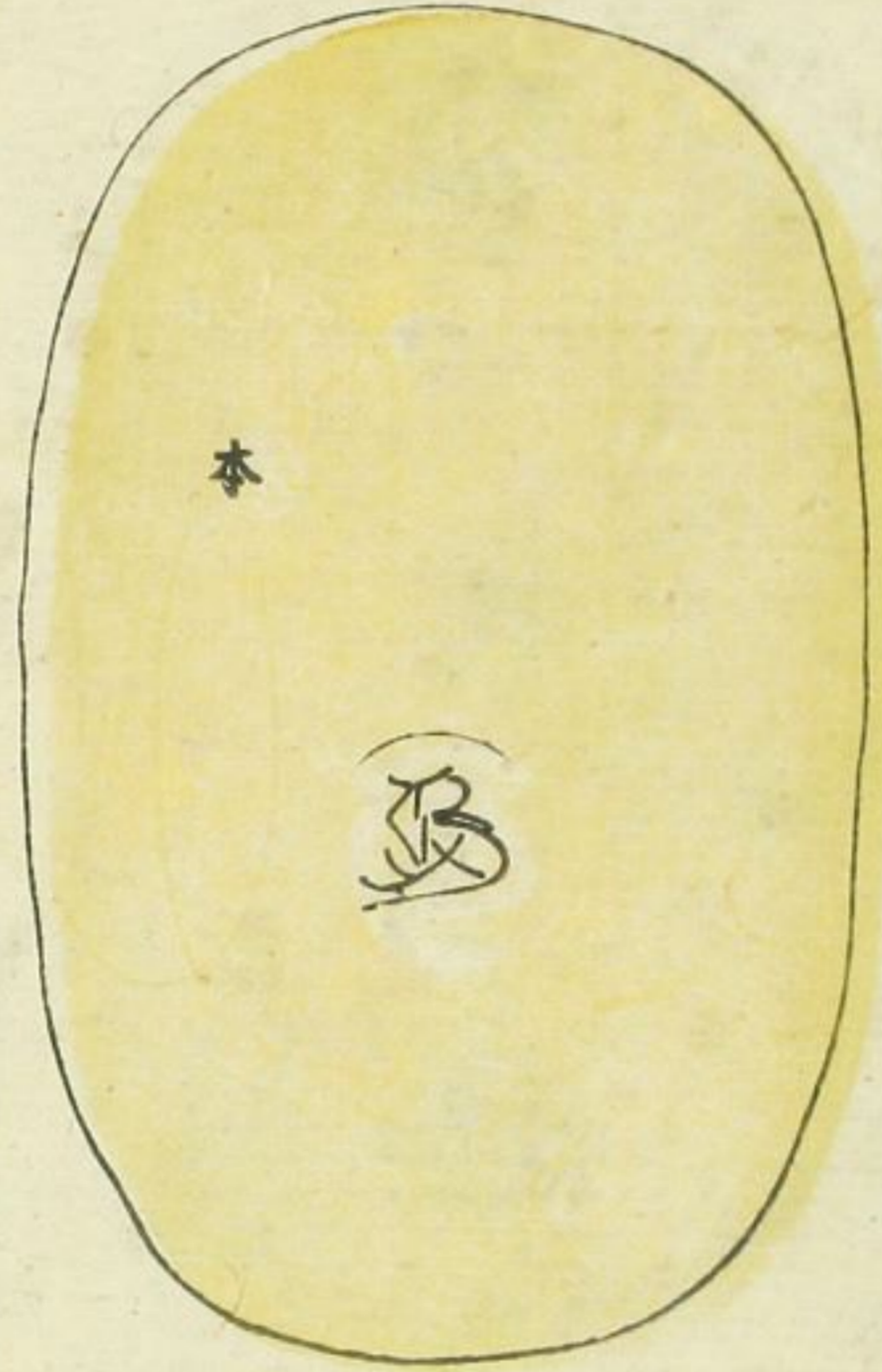
金銀蓄品ニ出ツ云重五匁  
信長ノ制スル所ト疑ヘシ

朝鮮大判金



重サ拾貳匁分金位中何ヲ以  
テ朝鮮ト名ツルヤ其謂ヲ知ラス  
朝鮮征ノ時造ラレシモノヤ

背

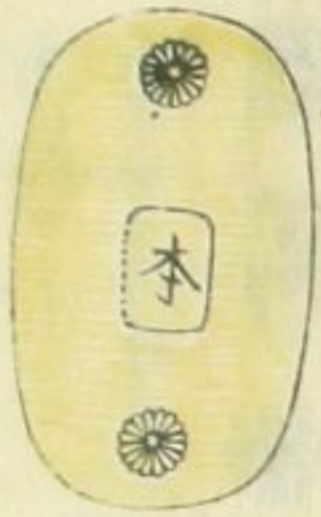


同上小判金



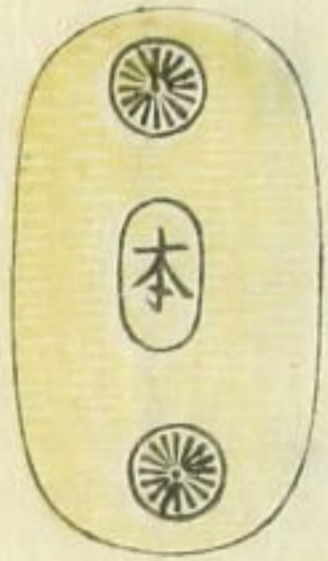
重廿貳及四分五厘金位中

同上半小判金



重廿壹及貳分金位中又一  
品模造ノモノアリ重廿壹及  
壹分一名菊本小判

同上銀



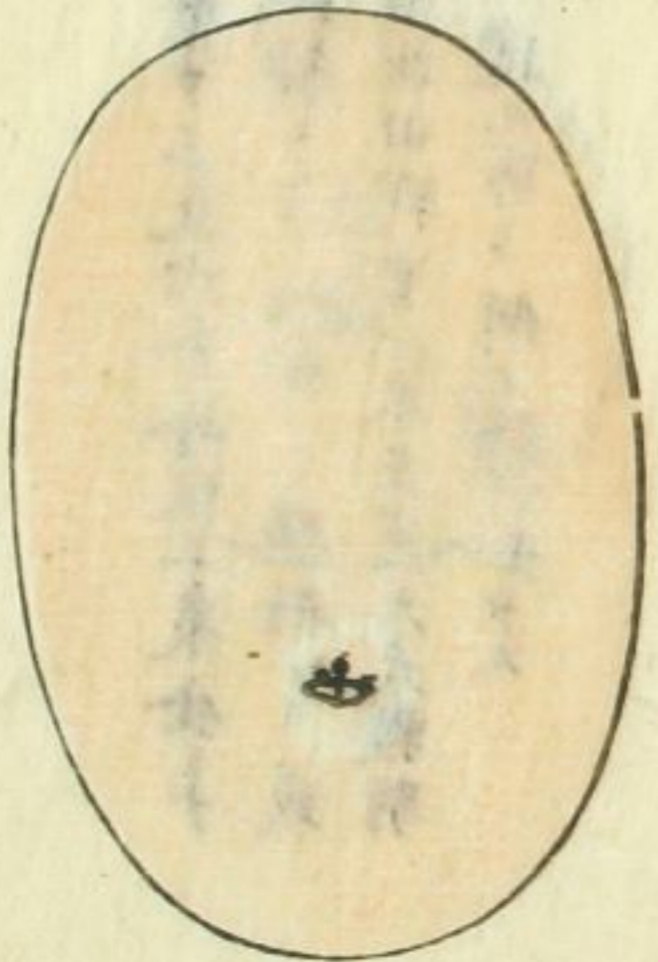
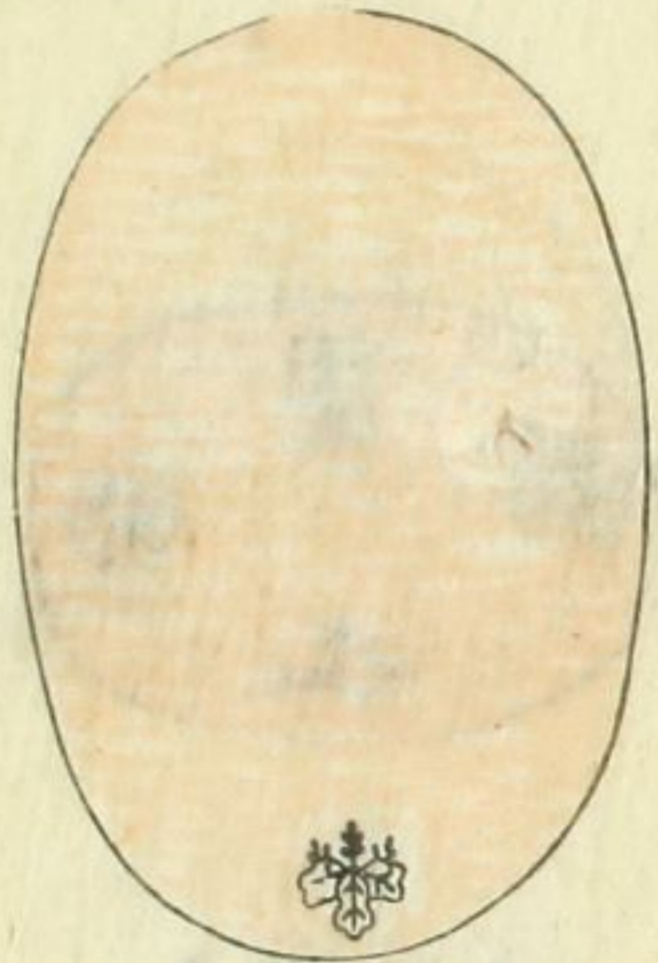
重サ壹匁三分

壽永小判金



重サ五匁金位上上雅古醇  
麗喜へし或ハ云壽永中造ル所  
或ハ云北條泰時所造何ノ拠ラ  
知ラス

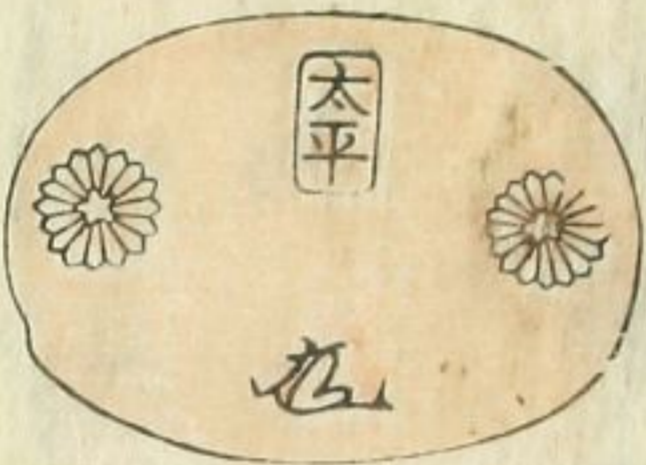
大塔宮小判金



太平小判

重サ四匁六分金位上ノ上衆加曰コシ京目壹兩金ノ墨書  
剥落セシモノナルニ云用品併セ見ベシ何ヲ以テカ大  
塔宮小判ト云ヤ知ラス姑ク曰名ニ從テ此ニ附ス

太平小判金



重サ三匁六分金位上象金ニテ  
 縦楮ニシテ此金ノニ横楮ナリ或  
 云新田判官仁木左京大夫頼明  
 ノ造ル所ト何ノ拠ラ知ラス

大藏省小判金

止門小判金



重サ四匁貳分金位中ノ下

赤松小判金



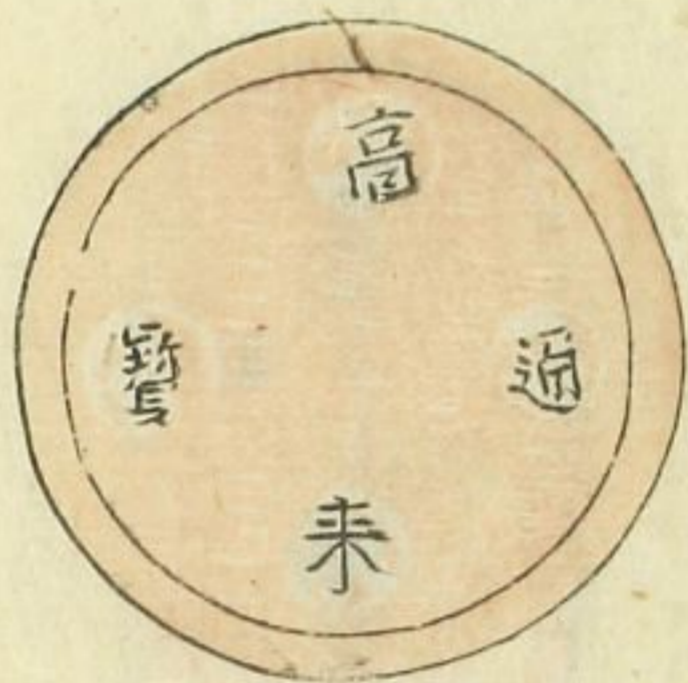
重サ四匁壹分金位上

正長小判金



重サ四匁五分金位上  
 金色古雅見へ此金  
 正長年間ニ造ル所ナ  
 正長八人ノ名ナルカ詳ナ  
 ラス

高来小判金



重サ四匁金位上

式人云此金肥前国高来郡  
造ル所カト来々然否ヲ知ズ

風戸小判金



重サ四匁壹分  
金位下



漆小判金

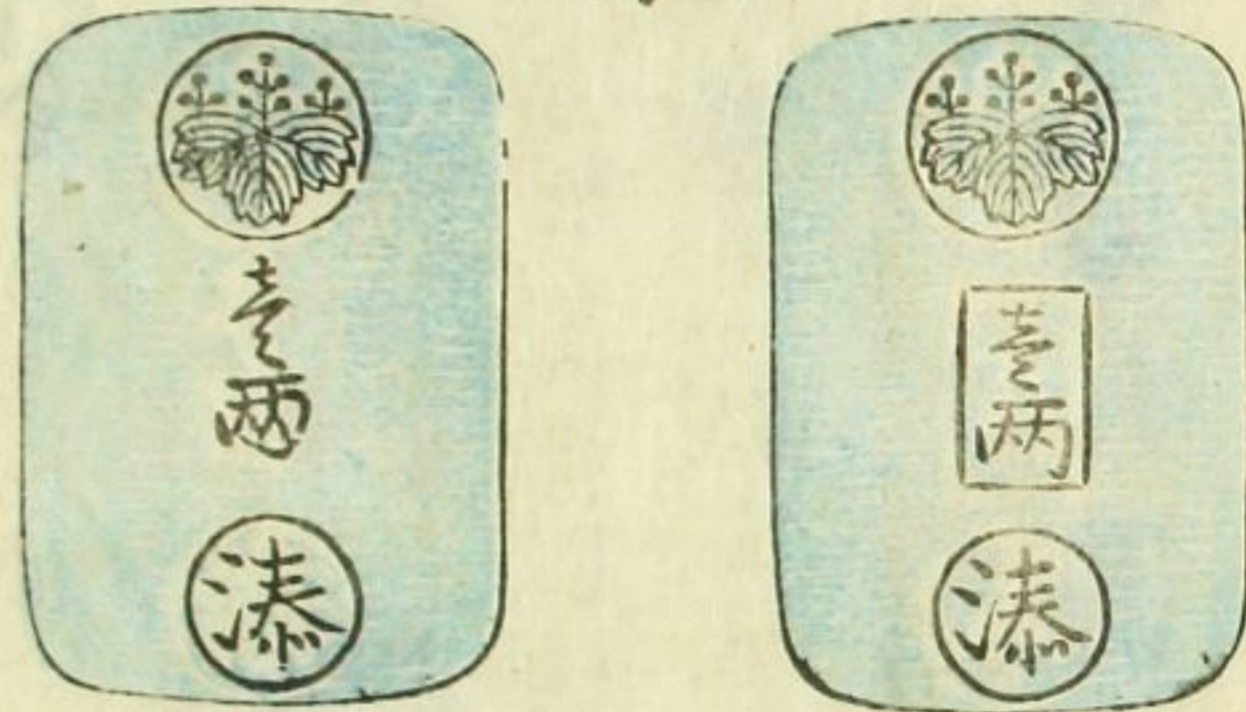


重サ四匁金位上

漆小判金

同上

同上銀



重サ貳匁四分是  
模造ノモノ

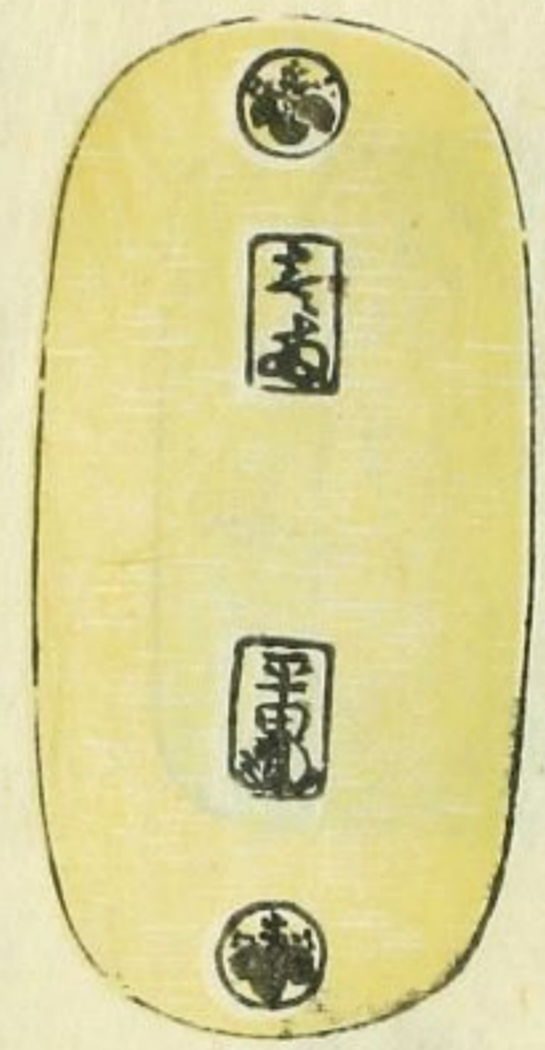
重サ貳匁五分

三浦小判金



重サ三匁壹分  
又銀判アリ重サ三匁  
共ニ模造ノモノ

平田小判銀



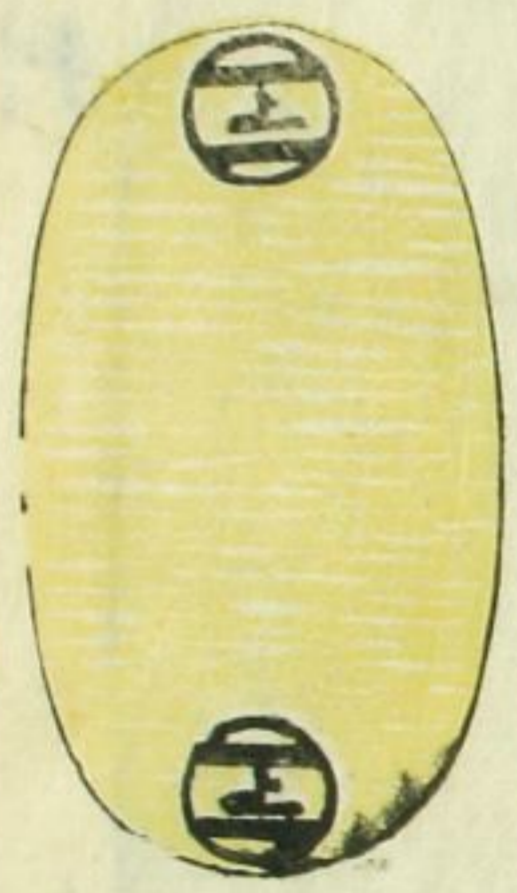
重サ四匁貳分

桐小判金

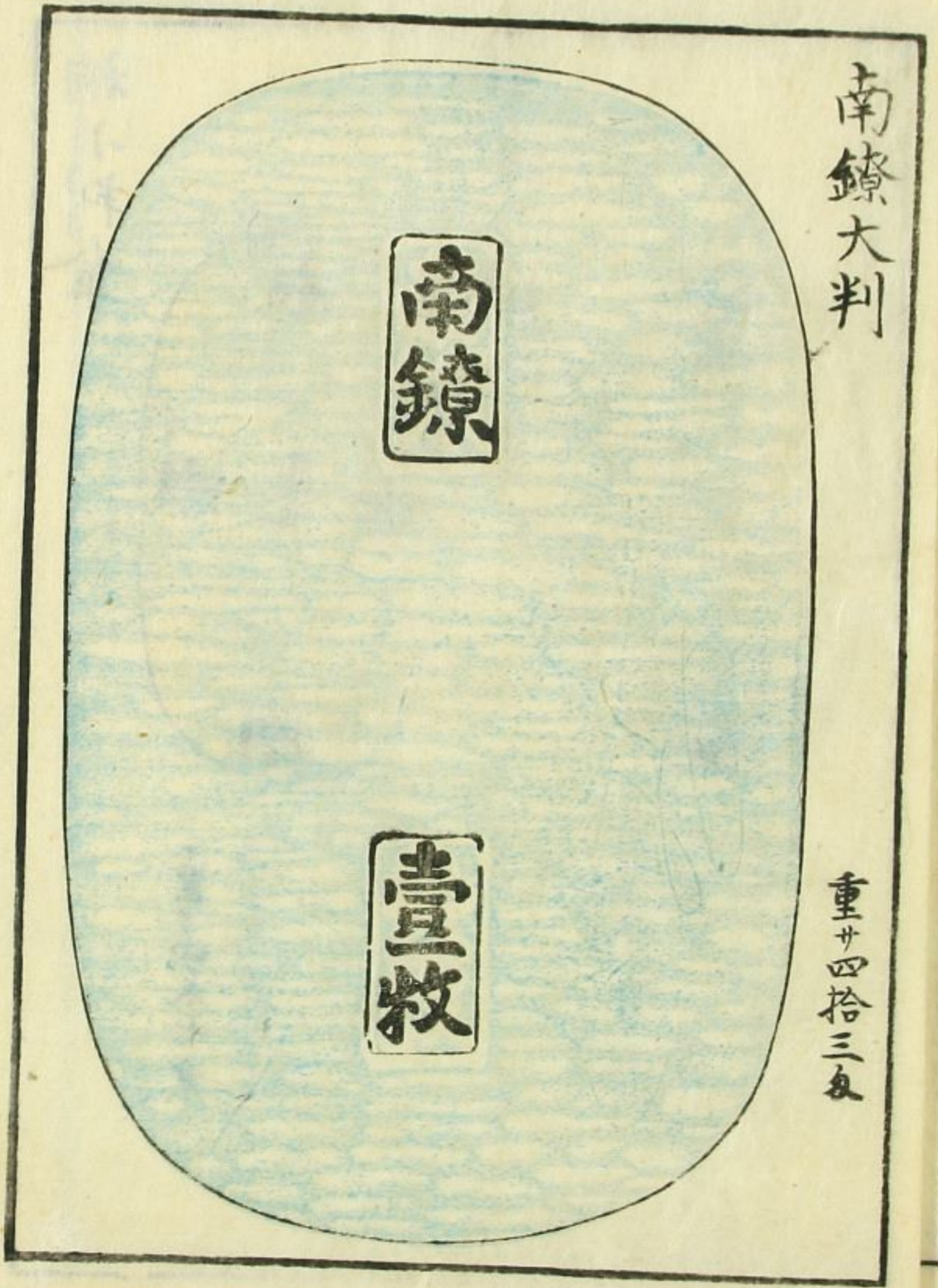


重サ四匁七分

上字小判金

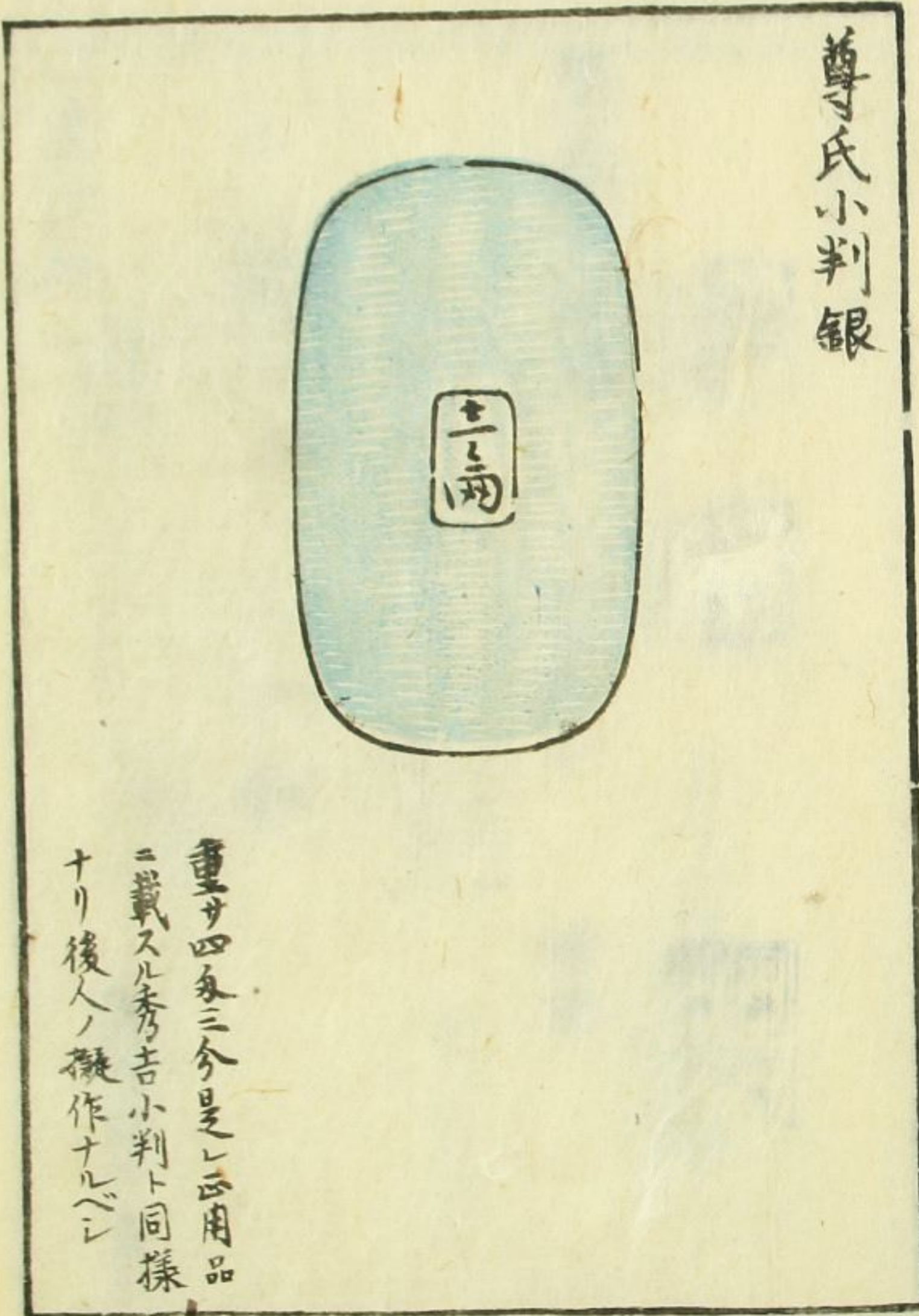


南鐮大判



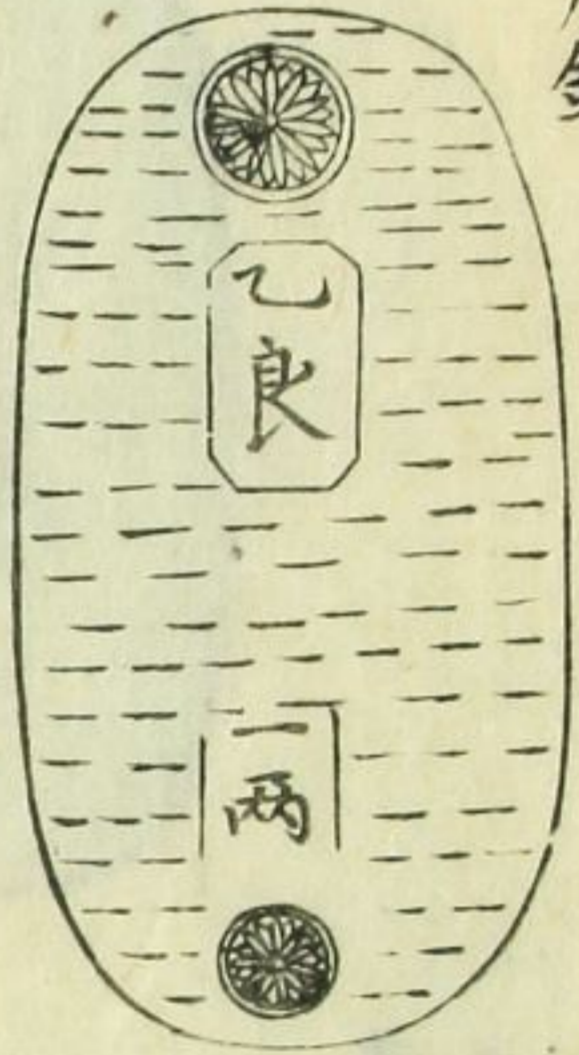
重サ四拾三五

尊氏小判銀



重サ四五三分是レ正用品  
ニ載スル秀吉小判ト同様  
ナリ後人ノ擬作ナレシ

乙良判銀



金銀番品載入

澤瀉壹分銀



切銀



菊桐南鐐



重廿壹分



南兩一分



銀壹分



重廿壹分

袋一分銀



同上



重廿七分

菊一分銀



重サ六分

桐一分銀



重サ九分



重サ壹匁

同上

宝一分銀



重サ九分

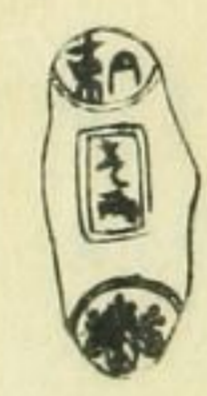


吉字銀

南鐐判



重  
背石目



重サ七分七厘  
背石目

銀小判

銀壹分



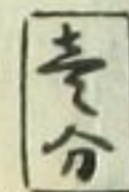
重サ壹匁壹分

南銀壹分



重サ壹匁

和同壹分銀



梅村銀



重廿八分

銀壹分

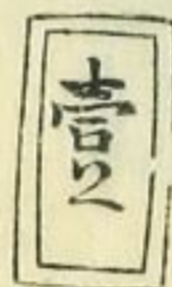


重廿壹分



銀壹分

以下十五品金銀壹品二  
載入皆類之銀壹分也



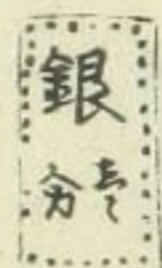
重廿九分



重廿壹分



重廿九分五厘



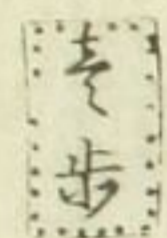
重十八分五厘



背



重廿九分五厘



背



重廿九分



背



重九分



背



重九分



背



重八分五厘



背



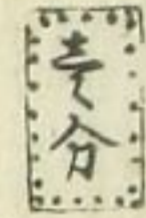
重七分  
此銀紋毛彫ナリ  
極印ニテハ無ニ



背



重壹反壹分



背



重八分

金銀圖錄卷之五



背



重壹分



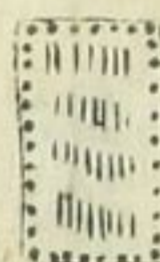
背



重九分



背



重九分



早稲田大学図書館

011688995150